



高坪橋親水広場 (撮影 阿部会員)

令和4年2月号 Vol. 214
(2022年)

発行：令和4年2月5日

あつぎ観光ボランティアガイド協会

ホームページ <http://atugikanvola.sakura.ne.jp>

メールアドレス atugikanvola@yahoo.co.jp

発行責任者 会長 森島 誠 編集担当者 澤田 正弘

<配布ガイド資料の製本・ガイド勉強会に参加して>

行事区分：訪問ガイド研修の準備

日 時：1月9日(日) 9:30~15:00

場 所：東丹沢七沢観光案内所 2階会議室

参加者：会員13名

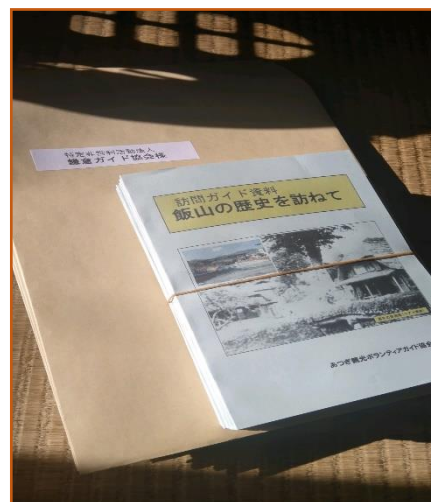
年明けの雪がまだあちらこちらに残る1月9日、この日は20日に実施される訪問ガイドの打ち合わせ及び資料作成が行われました。

午前中は12月に実施した第1回の下見を基に当日に向けた詳細な打ち合わせと、お渡しする資料の製本を同時に進めていきました。

あつぎ観ボラの大きな特徴であり自慢でもある資料は、掲載する内容は勿論、その製本もとても丁寧に行われます。今回は私を含め製本初体験のメンバーで作成しました。

午後は先に行われた打ち合わせ内容を全体で共有した後、当日の流れに合わせた資料の読み合わせが行われました。どこでどのように説明をするのか、雑談に使えるような内容も含めて共有された多くの情報は、お客さまに説明をするガイドだけでなく、全員が理解・共有をして当日に臨みます。

来てくださったお客様にご満足頂き、また厚木を知って頂くためにこれほどの時間と作業を要することを初めて知ると共に、皆さんの活動への想いの強さを改めて実感する、そんな一日となりました。



配布用ガイド冊子

(毛利 記)



会員投稿

《飯山もみじ狩り・ライトアップイベントに行ってきました》

寺田 敏

東丹沢七沢観光案内所で厚木市観光協会主催の「飯山もみじ狩り・ライトアップイベント」のパンフレットを見ました。開催日は12月4日（土）で「鮎の塩焼き」「いのしし鍋」の無料配布があり10時～15時（無くなり次第終了）と記載されています。

毎年の年賀状に夫婦の元気な姿を披露する為に、旅行の写真を載せるのが恒例になっていましたが、コロナ感染で旅行に行けず昨年は断念、今年はどうするか決めかねていました。タイミングが良いので、紅葉をバックにして夫婦の写真をどなたかに写して頂き、年賀状に載せようと思い付きました。



運動不足を解消する為に、ひたすら歩く事も日常の目的にしていたので、最初は自宅から徒歩で行こうかと考えましたが、距離があるので止めて、その代わりに直近の有料駐車場には停めずに、麓の金剛寺横の飯山花の里の臨時駐車場に停めて歩くことにしました。距離はさほどではありませんが、勾配があり、現在の自分の体力を考慮すると結構な運動量になります。階段を登り、最初に長谷寺の観音堂でお参りを済ませました。



鮎の塩焼き

緊急事態宣言も終わり、思っていたより大勢の方が居て、早い方はベンチに座っているいのしし鍋を食べていました。いのしし鍋は人の流れが速く並び程ではなく直ぐに食べることができました。鮎の塩焼きは焼くのに時間が掛かるので整理券を出して順番に配っています。20分程待って食べました。待たされたこともあり、焼きたての鮎は大変美味しく無料で貰っているのかな？と思うほどでした。

食べるのを済ませ紅葉狩りの場所に行きました。コロナ感染で観ボラの企画ガイドと神奈中観光主催「厚木名所めぐり」の依頼ガイドも中止になった場所です。通常はあまり人が通らない場所ですが、やはりこの日は違いました。紅葉が綺麗な所で近くの方に声を掛け「年賀状の写真にしますから」と撮影を依頼しました。「私達もお願いします」と言われ交互に写真を撮りました。「マスクを外してください」と言われ「今年らしいからそのまま」と言うと、すごく納得して写していただきました。私達は行きませんでした。夜はライトアップがあり、行った方は魅了されたと思います。



「厚木市史近代資料編（3）文化文芸」は 1200 頁ほどありますが、そのうち約 600 頁が俳句関連の史料となっており、厚木には俳句を楽しむ方が数多くいたことを示しています。

さて、俳句を志す人は大津義仲寺（ぎちゅうじ）にある芭蕉のお墓に詣でることを望んでいたようですが、遠方のため全国各地に芭蕉ゆかりの品を埋めた供養塔や句碑を建立しお参りしており、これらの石碑を総称して翁墳（おきなづか）と呼びました。

芭蕉没後 33 回忌までの翁塚に句碑は見られず、その後徐々に句碑に入れ替わっていったようです。厚木ではその両方を見ることが出来ます。

厚木市松枝の日枝神社境内には芭蕉翁梅塚が建てられています。延享 3（1746）年に建てられた碑で市史によれば翁塚としては神奈川県で最も古いものといいますが芭蕉の句は刻まれていません。芭蕉が元禄 7（1694）年に大阪で亡くなってから 52 年後に建立された碑で、浅草蔵前の俳人自在庵祇徳が厚木に開設した俳学校風月庵の社中により造られています。



芭蕉翁梅塚

祇徳は芭蕉の十哲の一人其角の流れを汲むといわれています。

芭蕉の菩提寺である義仲寺は、全国にある翁墳を一覧にした「諸国翁墳記（しょこくおきなづかのき）」を出版しています。

初出版から何度も改訂版が作られており、この中では八つの梅塚が紹介されていますが、厚木の梅塚は掲載されていません。



猿塚と諸国翁墳記

厚木の翁塚で「諸国翁墳記」に掲載されている塚は二つあります。一つは猿ヶ島本立寺の入口の猿塚で比較的早くから掲載されており、厚木の俳人五柏園丈水 70 歳の時に建てられたそうです。「年々や猿に着せたるさるの面」の句が刻まれています。

丈水は、本名を大塚六衛門武喜という猿ヶ島の名主で、祇徳の門弟として自身も厚木地域に数百人の

お弟子さんを持っていたということです。

もう一つの句碑は丈水八十四歳のとき社中の皆さんが建立したもので、相州石神大明神社（現荻野神社）で見ることが出来ます。しかし、こちらの碑は劣化が進んでおり境内の石祠の台座脇に他の傷んだ石碑と一緒にまとめて置かれています。この石碑が「諸国翁墳記」に記載されている「物の名を先づとう荻の若葉哉」と刻まれた句碑であることは、残っている「八十四丈水写 社中建為」の文字からわかります。



荻塚と諸国翁墳記

主な参考文献

諸国翁墳記（義仲寺：国立国会図書館所蔵他） 文学碑（厚木の歴史探訪2：厚木市文化財協会） 厚木市史（近代資料編（3）文化文芸：厚木市） 「諸国翁墳記」研究—諸本の出版年代について（東洋大学大学院紀要：斎藤諒） 芭蕉「梅花」考（国文学：胡文海）

観光ガイドの予定

行事名	日時	歩く距離	募集人員
奥七沢パワースポットと神秘の里 (ハイキング)	3月5日(土) 9:30~15:00	約7Km	25名(先着順)
ルート	東丹沢七沢観光案内所～伊勢原浄水場～白髪神社～日向薬師～日向梅園～亀石～観音寺～東丹沢七沢観光案内所		
申込み	2月18日～2月25日 東丹沢七沢観光案内所 046-248-1102		
			

最近の活動

日時	場所	内容	参加者
1月12日	飯山地区	訪問ガイド下見(2回目) 「飯山の歴史を訪ねて」	会員 11名

編集後記

かながわガイド協議会の各団体の皆様をお迎えしての訪問ガイド研修「飯山の歴史を訪ねて」は1月20日開催予定でしたが、新型コロナの急激な感染拡大により延期が決定しました。それまで勉強会2回、現地下見2回、配布ガイド冊子の製本、さらには個別に現地でガイド練習を行うグループなど、当協会の総力を挙げて準備してきたのに残念でなりません。新型コロナに邪魔されない観光ガイドが早く出来るよう願っています。

編集委員 阿部 啓冊 小林直樹 澤田 正弘 前澤 宣子